

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	スキル：・自己を認識する力／自己選択できる力 倫理観：・粘り強くやり切る力 ・表現力 ・挑戦し続ける力 ・コラボレーション力
1.長期欠席者の減少に向けた取組の推進。 2.学力調査結果を分析して具体的な改善策を確認して成果につなげる。	・「学習を通して考えたことや振り返ったことをノートに書く」92.1％(小),「授業で勉強した事柄をいくつか組み合わせて解く」87.2％(中)と，学んだことを使いながら学習に向き合う児童生徒が増えている。 ・小中ともに児童生徒が自ら動き，生活をよりよくしようとする姿が見られる。 ・「体力づくりに取り組んでいる」の肯定評価が80.8％である。(小)	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	知：自分の考えを持ち伝え合う子 徳：人の気持ちがわかり協力できる子 体：健康でねばり強い子
		中学校区として統一した取組等	・神辺西中学校区でめざす授業の姿を共有（「書く」ことを中心とした「考える」授業づくり） ・児童生徒による生徒指導規程（生活のきまり）の見直しの継続 ・神辺西中学校区における「21世紀スキル&倫理観」に基づく個に応じた指導の実施

Ⅲ 自 校

ミッション	
伝統を現在に生かし、未来を生き抜く人を育てる。	

学校教育目標	
自考自動 ―自ら考え、自ら動く―	

現 状	
＜児童生徒＞ - 学力調査における無回答率には改善が見られる。全国学力調査では、全国平均に対して、国語+0.8 算数-0.6 である。課題となる問題の再調査においては目標値を上回った。考えたことを言葉や式で表そうとする態度及び力が少しずつ高まっていると感じる。相手の考えや式の意味を考える力には以前課題がある。 「周りの人の気持ちを考えて行動できた」と自己評価する児童は 94.4%である。生活目標に対する振り返りを通して自分達の行動について考えたり、児童同士が互いに肯定的評価を行ったりできた。一方、挨拶の姿に課題がある。 ＜授業＞ 「書く&考える」内容を具体化する教材研究や、互いの考えの意味を考えたり検討したりする対話的な学びを、さらに進めていく必要がある。	

育成する力 (21 世紀型 “スキル&倫理観”)		自己を認識する力	思考し判断し表現する力	試し、挑む力
めざす 子ども像		・学びや生活を通して自己を振り返ることで、学んだことや良さ、がんばり、課題を実感できる子ども。	・じっくり考え、自分の考えをもつ子ども。 ・互いの考えを伝え合い、対話を通して学ぼうとする子ども。 ・学習や生活の課題に対して、解決の方法を考え行動する子ども。	・学習や生活の様々なことに対して、試行錯誤を繰り返したり、挑戦してみようとしたりする子ども。

研究	テーマ	「書く&考える」学びの実現	
	内容等	「書く&考える」学びを軸に置いた授業 「書く」と「対話」を通して、自分の考えを再構成する授業を展開する。 「書く&考える」内容を具体化（何を書き、何を考えるか）した教材研究を行う。 - 読みの観点を自覚しながら読み、考えを形成する授業を行う。（国語） - 図・式・言葉や式を往還しながら考える授業を行う。（算数） - アセスメントに基づき、授業UD及びUDLを進める。	
めざす授業の姿		「書く」と「対話」を通して自分の考えを整理し、共に学ぶ楽しさを味わう授業。身に付けた既習事項を活用して、新たな課題を解決することのできる授業。	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立神辺小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力を入 れ評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力を入 れ評価	達成 評価	総合 評価
1	「書く・考 える」学び を 実 現 す る。	★	継 続	児童が考えを 深め、「できた」 「わかった」と 実感できる授 業を実現する。	①「書く・考える」 内容の具体化 →教科への理解を 深めることで、 授業のねらいを 明確にしたり、 指導展開を工夫 したりする。 ②「アセスメント」 に基づく授業づ くり →児童の実態を捉 え、実態から授 業を構成する。	・「何を考え書くか を具体化して、授 業づくり・教材研 究を行っている」 授業者の割合を 80%以上にする。 ・「日々の授業で 『できた』『わか った』と感じる」 児 童 の 割 合 を 80%以上にする。								
1	「書く・考 える」学び を 実 現 す る。	★	継 続	児童が相手の ことを考え、 自ら行動する ことができる。	①共感的な人間関 係を育成するた めに、毎月1つ の生活目標を設 定し、学級活動 で自らの行動を 振り返る時間を 設ける。 ②段階的に掃除の 在り方を考え、 自ら進んで掃除 ができる児童を 育成する取組を 進める。	・学校全体の生活目 標の達成度を8 5%以上にする。 ・時間いっぱい掃 除をする児童を8 0%以上にする。 (中間:すみずみま で掃除できる児 童。最終:見つけ 掃除ができる児 童)								

[illegible]

				教職員一人一人の働き方に対する意識の醸成を図る。	①教育目標や「書く考える」学びに対して各自が自己目標を設定し、互いの実践について交流や対話を繰り返しながら進める。 ②超過勤務45時間以内を目指し、部会や学年会で、見通しを共有し、互いに声を掛け合う。	・職員アンケートにおいて、「時間をつくる工夫をしながら、自己目標に基づいた取組を進めている」職員を80%以上にする。												
--	--	--	--	--------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。